

世界の潮流

中国の粤港澳大湾区発展計画とフィンテック

国際社会経済研究所

(NECグループ)主幹研究員

大平 公一郎



キャッシュレス

中国では、アリババ人コンビ二エンスストの「アリペイ」、テンア、1人用カラオケボックスとといったキャッシュレス決済を前提とクサービスの需要が盛る。

機能をもスマートフォン上では使えるフィンテック(金融とITの融合)サービスが広く利用されている。深圳で、アジアを代表する

もこうしたサービスは国際金融都市だが、幅広く使われており、フィンテックサービスの導入やフィンテック企

香港では、こうした状況を改善するため、実店舗を持たずインターネット上でサービスを提供するバーチャルバンク、電話番号やメールアドレスを通じた送金や2次元コード

QRコード決済が交通系ICカード「オクトパス」が早くから普及したことなどにより、新しいフィンテックサービスの需要が盛る。

ユニコーン企業

「サイバポート」などスタートアップ企業の支援施設の充実も



アリババ系スーパー盒馬鮮生のキャッシュレジ

ン企業もいくつか登場している。融サービスの発展も進められていく。

粤港澳大湾区発展計画に画において、香港は金融分野のけん引役とされる。8月に発表された、国際金融センターとしての地位強化がさらに進められる。また、香港はこれまで外国が中国に投資をする際の拠点であったが、今後は中国が外国に投資をする際の窓口機能が強まっていくとの見方がある。

特色ある金融

広州に地域プライベート・エクイティ取引市場、深圳に保険革新発展試験区が設置され、マカオはポルトガル語圏との金融サービス連携に取り組むなど、地域で特色ある金融

香港、スタートアップ増加

(金曜日に掲載)